

(4) 各会場での質疑応答の概要

意見要約	年齢	性別	対応	応答要約
◆ 入田沢・青木(10月18日:義民の郷ふれあいセンター)				
アンケートの表示の仕方をもっとわかりやすくしてほしい。	60代	男性	担当	今後検討したい。
道の駅は東御は参考にしたのか、参考にしてはどうか。				全国55か所を参考にした。
ふるさと公園の花壇が除草剤で枯れているが。				外来種の駆除が目的だと思うが、個人の管理の問題もあり対応は難しい。
国道143号の青木峠新トンネルのバイパス的な利用増について考えているか。				平成33年の三才山トンネルの無料化により、そんなには交通量が増えないのではないかと考えている。
小中学校2クラス化プロジェクトで、上田、松本のベッドタウンにして人口増加につなげられるとよい。				婚活を含め、やるべきことは多い。上田・松本間を結ぶ高速バスも運行できるとよい。
村営住宅の周りの草刈りなど維持管理をして欲しい。				県に村営住宅の買い取り制度を検討していただきたいと考えている。
健康寿命を高めるための講演会を開催して欲しい。				運動の普及を含めてしっかり取り組みたい。
村営住宅でも子どもが大きくなると村外へ行ってしまう。	60代	女性	村長	村営住宅よりも100万円の補助に方針を転換した。リフォームの補助として20万円もつける。空き家バンクには40軒の登録があるので、これらを活用していきたい。進村営住宅を県へ要望している。
村長からの情報提供をして欲しい。				確定した情報は流している。
災害対策について、村内に雨量計は3か所ある。	60代	男性	村長	地震対策(青木区)。洪水は場所によって危険度が違う。
浦野川の水位計は避難警報をいつ出すか。				どこに避難してよいかはわからない。場合によっては重機が必要となるため、日立リースと協定を結んでいる。熊本地震を教訓に、災害援助協定を4自治体と結びたい(弥彦村、久喜市とは締結)
場坂山は崩れないのか。地質は大丈夫か。				大丈夫。過去に震度4があったが何もなかった。
白橋の被害があった。早めの避難勧告を出して欲しい。	70代	男性	村長	河川の浸食も進んでいるので、検討したい。
河川の堤防が建設から60年経過し、老朽化しているため整備して欲しい。国や県へ要望を挙げて欲しい。保育園前の河川がえぐられている。	60代	男性	村長	11月の地区要望を出して欲しい。国や県には要望を挙げていきたい。青木村は河床が削られて下がる傾向にある。河川パトロールで状況把握をしたい。
松くい虫の対策の現状を教えてください。	40代	男性	村長	過去には薬剤の空中散布をしていたが、現在ではできない(効果はあったが反対意見も多い)。全量駆除を基本として取り組む。緩衝帯も必要である。周辺自治体と連携して、年間4千万円かけている。樹種転換も行っている。
◆ 殿戸・夫神・細谷(10月19日:殿戸区コミュニティセンター)				
地区別人口が増えている要因は(当郷、青木、中挾、殿戸)何か。	60代	男性	担当課長	中挾はラポート、他の地区は若い人が多い。
自分の子供は転出し、家も建ててしまった。呼び戻す策はないのか。			村長	特に村松はIターン者が多い。青木は村営住宅、中挾団地は若者定住を利用が主な要因ではないか。
漠然とした理由として、“村”というのがネックか。				青木村は消滅候補都市にはなっていない。現在は、村営住宅に村費を使うのではなく、住宅補助やリフォーム補助に力を入れている。転出防止策として、村営住宅を買い取ってもらうやり方も検討している。空き家活用やお試し住宅にも力を入れた。松本が通勤圏となるように青木峠の新トンネル整備に力を入れていきたい。
結婚していない人が多い地区等のデータはあるか。それを分析し、人口を増やす努力が必要ではないか。小学生、中学生が結婚式に出る機会が少ない。結婚というものを知らないのではないか。				“村”というネームは若い人にとってはそれほど気にはなっていない。
道の駅の高機能化について、重点推進事業の1番にもって来た理由は何か。6次産業化による雇用創出で人口4,200人確保は難しいのでは。大企業の誘致などもっと大きなスケールのものを持って来た方が人口増につながるのではないか。実現不可能でもっと大きい目標があった方がよい。新トンネルを1番にした方がよい。	70代	男性	村長	未婚者のデータは取っていない。消防団を魅力あるものにしたい。団員の半分が未婚。婚活に力を入れる。少しずつ効果はある。
10kmから20kmウォーキングしているが、ウォーキングロードを整備してはどうか。健康が一番である。	60代	男性	村長	3か年での実効性が問われる。企業誘致を1番に持ってこなかった理由は、5か年で実現することは難しいと社協にいたときに感じたからである。ただ、新トンネルが開通すればという前提で企業進出の話もある。東京と青木の近さを感じさせたい。青木から20人が東京へ通勤しており、新幹線のスピードアップをお願いしているところである。
新トンネルの取り付け道路はどうするの。	70代	男性	村長	体を動かす、食べる、健康診断を受けることが大事なこと。青木村版のメニューを考えたい。ビロリ菌をなくせば健康につながる。
ふるさと公園の横断歩道が危険。陸橋や地下道の設置は可能か。				新トンネルが開いての交通量はまだはっきりしていない。平成33年の三才山トンネルの無料に合わせて開きたい。現在は12時間で8,000台の交通量。トンネルを掘る方に力を注いでいる。ファミリーマートの前あたりの用地買収が始まっている。
末っ子が弓道をやっている。武道が揃っている自治体がない。村内に武道施設の構想はないか。				公園の横断歩道は用地が足りず難しい。階段もお年寄りには厳しい。信号設置も年間30くらいに限られている。県警に対しては要望を出すなどの努力はしている。
温泉を利用した健康増進プロジェクトを進めて欲しい。外からも人が増える。	70代	男性	村長	佐久市に県立武道館の建設計画がある。
青木三山のトレッキングコースとキャンプを結び付けてはどうか。林間のサイクリングコースもよい。				田沢・沓掛温泉は、鹿教湯温泉同様に国民保養温泉地の指定を受けている。何かPRしたい。
◆ 下奈・入奈・沓掛(10月26日:下奈良本ふれあいセンター滝の館)				
国道143号新トンネル開通後、当郷から田沢温泉入口までの交通混雑が予想されるため、バイパスなどの新設により安全にして欲しい。	入奈区長		村長	新トンネル整備は、平成33年6月10日三才山トンネル無料化に間に合うよう期待している。交通安全対策として歩道整備は浦野・殿戸間で事業化している。キャステクから南部消防署までの裏道の整備を考えたい。道の駅付近の現在の12時間交通量は8千台、秋と交差点で12千台である。三才山トンネルもあり、交通量はある程度分散化されるのではないかと。
鹿教湯温泉に通じる豆石峠の整備はどう考えているか。				青木の発展軸として、国道143号と県道12号(主要地方道丸子信州新町)のクロスロードが重要。交通安全対策やう回路、防災道路などいくつかの事業をもって整備させたい。鹿教湯病院といづみのなど医療面での連携や松本市との連携、冬期の温泉利用にもつながる。
子育て支援として、障害児医療費の窓口無料化は県内77市町村のうち50市町村が実施しているが、青木村は未実施である。	60代	女性	村長	医療費は青木村も無料化している。
滝川が上がってきているので、県に河川整備の働きかけをして欲しい。	下奈区長		村長	県議の視察も受けている。
河床が不安定になっている箇所がある。				橋に入る手前は現地確認をする。大きな団地として交渉中である。
農家の高齢化や担い手不足が懸念される。	60台	男性	村長	11/22に地区要望を受けて現地調査を行う。
滝川ダムの浸漬は。白川ダムは。	70代	男性	村長	食料自給率が4割に留まる中で、原地籍など農地は守っていききたい。ワイン用ぶどうなど適地栽培や大手コンビニとも連携して食に活かしたい。担い手は20代、30代は難しいので、30代から60代までをつないで、売り上げ増を図っていききたい。減農薬で売れる農産物の生産、道の駅での販売、ふるさと応援の寄付金への返礼など様々な組み合わせで、次世代を育成しながら、かせげる農業を展開していきたい。ふるさと応援の寄付金はインターネット決済(さとふる)を取り入れ、1千万を目指したい。

意見要約	年齢	性別	対応	応答要約
・ 権現堂の上の農地は面向きなどタチアカネ栽培にどうか。				・ タチアカネの原種栽培させていただき、ソバの生産地として利用したい。作り手の確保が必要になる。
・ 入奈牧場の利用を研究し、大型機械が入るような農道を整備してはどうか。				
・ 若者の生活環境、少子化、小中学校2クラス化、就職、結婚について伺いたい。	50代	男性	村長	・ 青木村は「消滅候補都市」になっていない。3つ目のプロジェクトとして掲げた小中学校2クラス化を1つの旗印にして、他地域と協力しながら、婚活→結婚→妊娠→出産へとつなげていく考え。青木峠新トンネルが開けば、松本が通勤通学圏内に入る。直通バスにより通勤・通学も可能となる。現在約230戸ある空き家の活用や村営住宅の買い取りなどを図りたい。移住・定住の応援補助金を住宅のリフォームなどに活用いただきたい。また教育の充実で人口の流出抑制を図りたい。独身用のアパートは青木村では経営的に難があるが、研究はしている。婚活から結婚につなげる工夫が必要である。働く場の確保については、村内への工場進出の話もいただいている。
・ 元気づくり支援金を活用した松炭が表彰を受けた。今後も活動資金として元気づくり支援金の活用を図るとともに、村の報告会で表彰してはどうか。	70代	男性	村長	・ 若い人が結集するにも使うようなPRをしていきたい。
・ ふるさと公園には真田からも来園する方がいる。	60代	女性	村長	・ 8月に実施したアンケートでは村外来訪者が70%おり、道の駅の利用者も125%アップした。公園と道の駅の間の道路横断の安全確保については、信号機の設置に向けて、5月に警察にデータ提供をしたところである。
・ 若い父母からは遊具の1、2台の増設して欲しいとの声がある。				・ 現在の遊具や芝生の整備にも4,500万ほどかけている。
◆ 中村・中挾(10月27日:中挾防災研修センター)				
・ 計画内容は立派。アンケートは主人が答えたが、妻として意見出したかった。	70代	女性	村長	・ 10月下旬に実施するパブリックコメントで意見を出して欲しい。
・ 健康寿命延伸プロジェクトで、雨天でも運動できる場を提供して欲しい。障がい者など様々な人に対応した体力づくりや、週に歩いた距離を把握できるようにしくみを検討して欲しい。				・ 青木村の平均寿命は県内でも中間くらいの位置にある。健康寿命を伸ばすために、環境を活かし、楽しみながら歩いたり、歯の健康を保つ、塩分を減らすなどの具体的な取り組みを推進したい。歩くことは認知症予防にも効果的である。
・ 青木村は空気がよくて、水がよい。東京からも1時間30分でアクセスできることが強み。地震や災害(豪雨、大雨、大雪)がない。				・ 自然災害への対応など防災・観光のモデルとなる村づくりを進めたい。ふるさと公園にはヘリポートが整備され、道の駅には井戸もあって、浄水器も完備しているため、水も確保しやすい。サッポロとも災害時に水を提供いただける協定を結んでいる。また新潟県の弥彦村、埼玉県の久喜市(菖蒲町)と災害相互援助協定を結んでいる。またいざというときには、飲料水や食料、防災グッズなども避難所に備蓄している。
・ 田舎暮らしの中で歩く場所や女性がしゃべる場所が必要。				・ ふるさと公園には1周320mの周回コースがある。地域支え合い事業などを通じておしゃべりできる場を確保していきたい。
・ 行政任せではだめ、村民も考えていく必要がある。	60代	男性	村長	・ 村民の皆さんと語り合いながら 村らしい方策を見出していきたい。
・ 村の施設を使って体力測定をしたり、スポーツをとり入れて楽しく体力づくりができることを村民に周知してはどうか。ひきこもるのではなく、外出するような機会をつくり、自分の体力を自分でつくることで、健康寿命の延伸につながる。				・ 健康寿命については男で7~8歳 女で11歳ほど押し上げたい。松本市を見本にして、地区の集会所などでの体操などみんなで一緒にやる運動を広げていきたい。保健師やおきこ広場、児童センターなどの連携も必要。
・ 自然と接する環境を大事にして欲しい。				・ 青木村のよさを住民が知らない面もある。自然環境を活かして、日本一住みやすい村にしていきたい。
・ 自然の中で遊ばせるなど自然を活かしたカリキュラムをつくって欲しい。保育園からのそうした取り組みが体力づくりや楽しみとなり、将来的には健康寿命につながる。				・ 保育園や小学校では、既に自然の中でのカリキュラムも取り入れている。
・ 県の「信州やまほいく」には登録しないのか。				
・ 小中学校の2クラス化を目指すのはよい。タブレットばかりではなく本で調べたり、読書をするのも大切。				・ 青木中学校のごまゆみ祭には郷土芸能文化を入れている。成人式でも村に誇りに思ってくれていることをうれしく感じている。
・ 教育させてよかったと思う。経験は無駄にはならない。今までどおり進めて欲しい。				・ 歴代の県の教育長が2人が2度青木村に視察に来ている。大人の若者のひきこもりが現状については改善していきたい。
・ 障がいを持った子どもは集団行動がしにくい。今後も配慮して欲しい。				・ 障害者インクルーシブ教育の県下のモデルとして山梨県教育委員会が視察に来た。今後も教育方針については様子を見ていきたい。
・ 財政的に厳しい村だが、災害時の基金も貯めておきたい。				
・ 奨学金は活用して欲しいが、償還金は返していただきたい。				・ 青木村の子どもたちは全員、奨学金で借りたお金は返している。そのことは自慢である。
・ 人口減少を食い止め、若者定住を促して欲しい。	80代	男性	村長	・ 子育てハンドブックを作成し、婚活から出産・育児・教育まで支援していきたい。
・ 我々もPRしたいが、住むところ、就職、農業振興など村のPR方策をお聞きたい。				・ 青木村は消滅候補都市になっていない。村には98戸の村営住宅があり、住宅をつくる際の補助金は100万、リフォームには20万つく。お試し住宅や二地域居住、ひとり親の移住にも力を入れていきたい。雇用に関しては、村内に工場進出の話も数件きており、企業誘致に努めたい。農業は、ソバ、花卉、ワイン用ぶどうの生産など地域おこしにもつながるようきめ細かく支援していきたい。
・ 計画はよい。実りあるものにして欲しい。進捗状況を村民にフィードバックして、年に2度は村民に意見を聞いてもらいたい。そこから何か意見をとり入れて欲しい。				・ 3か年の実施計画を策定し、公表していきたい。
◆ 全地区(10月30日:保健センター研修室)				
・ 小中学校2クラス化プロジェクトはどのような過程でやっていくのか。	50代	男性	村長	・ 今年は生徒が35人だが、36人いれば国費で2クラス化できる。
・ 青木村から首都圏に通勤する人を支援する施策は。上田駅や大宮駅に通勤用の駐車場を整備するなど、單身寮に住む方に対してはそのくらいのことをしないとけないのか。				・ 子育てハンドブックをつくり、婚活から妊娠、出産、育児、教育まで一貫して支援していきたい。バスの定額化を実施し、300円になっているが、最終バスを50分近く遅らせて通勤通学の利便性向上を図っている。
・ 教育・文化で実生活に密着した講義など福祉分野などの社会教育に力を入れて欲しい。				・ 二地域居住のための住宅整備(池田薬局近く)を行っている。また、お試し住宅の活用を行っており、多くの人が利用されている。
・ 地域支え合い事業は具体的にはどのようなことか。				・ 北陸新幹線のスピードアップを推進していきたい。
・ 県営や神社仏閣を回れるよう、わかりやすく紹介できる取り組みを進めて欲しい。				・ 社会福祉分野でほきぼき教室を行っているが、具体的な事業があれば提案してもらいたい。
・ 上田の高校に多様な試験スタイルでいけるようにして欲しい。				・ 高齢者の独居世帯の新聞など資源ごみを出すなど、簡単な作業を地域のみんなで支える事業で、12地域で取り組んでいる。普段はお茶飲み会などもやっているが、特に災害のときにも役立ち、地域の誰かに何かあったときに対応ができる。
・ 村の活性化をして、人口を減らさないようにする。住みよい地域にすればよい。そのための経済力、働く場の確保が必要。入ってきたお金を外に出さないようにして、お金を落としてもらう必要がある。人がくるような施策を進めて欲しい。	60代	男性	村長	・ 道の駅を中心に東山道や浦野川などに回遊性をもたせたい。自転車利用も進めたいが、なかなか需要がない。恋渡神社の頒布を婚活に使えないかと思案している。
				・ 学力テストの公表結果をみると、青木村や真田が県下でも断トツでよい。県の教育委員会や他県からも視察に来ている。
				・ 国道143号の青木峠新トンネルが整備されれば、松本が通勤圏になる。高速バスも運行を考えている。

意見要約	年齢	性別	対応	応答要約
<ul style="list-style-type: none"> 観光 青木三山のトレッキングコースの活用自分たちではなく、お客さんの目線での見方を意識した取り組みを地元の観光パンフレットをわかりやすく。子嶺嶺岳は振り仮名をふらないとわからない。 グローバル化が進んでいる中で、看板にアルファベットを入れるなど、外国からのお客さん呼び込む視点で取り組んで欲しい。 インターネットの時代で田沢温泉の旅館にWi-Fiが入っていない。今の時代はWi-Fiが入っていないと若い人も高齢者も来ない。フロントではなく、部屋で使えるような情報環境を整備して欲しい。 登山者が多いのは子嶺嶺岳。少なくとも年間1,000人以上は来ている。頂上の展望をよくするための改善をして欲しい。北アルプスが子嶺嶺岳からばあっと見えるほど眺望よいので、見える山の案内版をつけて欲しい。 日本一住みたいもよいが、世界の中でも素晴らしい村であることを発信していくことが大事。 お客を呼ぶには景観形成をもっと一懸命やって欲しい。パチンコ屋や廃屋が目につく。看板は邪魔になるので、これを抑制して欲しい。グローバル化するには景観形成大事。地域で重点的に進めて欲しい。 お金はかかるが、これから開発するところを無電柱化するなどして欲しい。 村から出て来た人を戻すために、雇用も必要だが、青木村がよくなったと戻ってくるような気持ちを育てる教育が重要。 連帯感、一体感を生み出すような取り組みとして、村歌を公募してつくって欲しい。 子どもの頃に、学校の周りを走った記録が破られていないと思っている人がいる。スポーツだけではなく、樹齢の高い木、お年寄りなど、分野ごとに村のアピールをするための「青木村ギネスブック」をつくって欲しい。それが、よし頑張ろうとか、何かを大事にしようなど、村づくりの礎になるのではないかな。 アンケートで回答の少ない若い人が集まれる座談会や、気軽にフリーでもの言えるような場をつくってもらいたい。 国内では姉妹都市提携があるが、国際化が進む中で、青木村と海外との交流を増やす手段として海外の都市との提携が必要ではないか。農家民泊など海外からのホームステイなど、外から人を呼び込むことで活性化につなげて欲しい。 環境問題に対する取り組みは、外からみると本当にやっているのかわかりにくい。 村独自の取り組みをお金をかけずにアピールしてはどうか。上手なしかけをつくってやっているというアピールすることが大事。 青木村の理念をつくってもらいたい。条例や村民憲章があるといったが、もっと崇高な理念、目指す方向性を示すものが。村民でみんなで検討して理念をつくり、こういう方向を目指してやっているということを発信していくことが大事。 重点プロジェクトを中心に展開してもらえれば、住民の満足度の低い部分の解決につながるのではないかな。 2クラス化プロジェクトと趣旨は異なるが、子ども参観日で「スリーフォー」という名前が60代以降の世代には受け入れがたい。国語、算数コース等にしてもらった方が、転出にもつながる懸念がある。 環境問題として、農業用水に洗剤が流れてくることがある。下水道整備はどのように進んでいるのか。啓蒙が必要ではないかな。 青木村の四季は素晴らしい。郷土の素晴らしい自然(動植物)と文化を活用したソフトのパンフレットを作成して欲しい。 昆虫資料館で自然環境全般の環境学習を推進して欲しい。 国道143号の新トンネルの残土や残土の置場を使って何かできないか。盛土に郷土種を植栽したり、環境学習の場などにするなど、新たな環境をつくる視点も大事。素晴らしい自然環境を活用して欲しい。 青木村は森林が80%を占めている。公共施設に地元産のアカマツやカラマツを使うなど、それらの木材利用で世界一を目指さないか。 歴史的、文化的な視点で、東山道について国や広域の予算を使って研究し、整備をして欲しい。 青木村は山が扇形で見晴らしの景観がよい。 恋渡神社の活用などソフト対策も必要ではないか。 牧場は今後どのように活用していくのか。 				<ul style="list-style-type: none"> 観光サポーターズクラブで周知している。 補助金を使って、道の駅と田沢温泉の2か所にWi-Fiを整備している。 眺望だけではダメ。子嶺嶺岳は信州100名山の一つ。 景観形成とインターネットの活用は推進したい。 電線の地中化は村が全額もたないといけないので、なかなか難しい。 今つくとすれば若い人たち向けのものに。 今後検討していきたい。 若い人の集め方が課題である。 ネパールのナムチェバザールとは姉妹都市で連携ある。 環境問題については一生懸命取り組みたい。 村民憲章の上をつくるべきかどうか検討したい。 先生たちに考えていただきたい。 下水道整備は100%に近い。洗濯機が外にあるとか、下水道につながらないところでの処理によるものではないか。啓蒙はしていきたい。 学術的な価値も見極めながら検討したい。 様々な学習の場として使えるよう現在動いている。 残土についてはまだ置き場所も決まっていない。 東山道は歴史の道なので、調べて活用を図りたい。 ふるさと公園からの遮っている電線(電柱)を、いま考えれば移設しておけばよかった。 一部はタチアカネの原種をつくっている。タチアカネの生産地として活用できるとよい。
◆ 村松(10月31日:アイリスの館)				
<ul style="list-style-type: none"> 下奈良本のばばっくら農法を有効活用して欲しい。低農薬や自然農法の導入などを含め、構造改善等の計画をお願いしたい。 Aコープの学校には生徒が50名いる。 	70代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> 原地籍の道路整備が必要。7~8haすべての活用は難しい。 低農薬、有機農業の農作物を食べればアトピーはなくなるとも言われている。安心・安全の食生活を推進で健康寿命の延伸を図るとともに、漢方薬をつくる検討も進めたい。
<ul style="list-style-type: none"> 全学年2クラスの定義は。 道の駅に村民が気軽に集まるようにし、品ぞろえを豊富にして欲しい。 	60代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で36人以上で2クラスになる。 市庭の活用や情報発信の促進を図り、村民の期待に応えられる施設にしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 旅館の数を増やしてはどうか。 パート対応を含め、就労の場の確保のために工場誘致をお願いしたい。 				<ul style="list-style-type: none"> 満山荘は月に100万円分を直売所で購入している。もう1軒売りに出ている。 2件ほど工場用地の引き合いがあるので、積極的に誘致していきたい。そのためには何らかの優遇策が必要になる。
<ul style="list-style-type: none"> 人口問題が叫ばれているなかで、今後の人口対策は。 	70代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> 青木村は自然災害のリスクが比較的低い。これを活かして「お試し住宅」や「2地域居住」の推進を図っていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 回答者の内訳はどのようになっていくか。 人口の長期見通しは。 				<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは転入者の回答が多い傾向にあるが、1ターンは60代以上が多い。 国道143号の青木峠新トンネルを開通させ、松本への通勤通学を可能にするとともに、新幹線のスピードアップ化を実現させることで社会増を図りたい。

意見要約	年齢	性別	対応	応答要約
<ul style="list-style-type: none"> ・Iターンの方で、子どものアトピーや食物アレルギー対応で転居されてくる方もいる。 ・婚活や村外通勤者の転入を推進して欲しい。 ・太陽光パネルや廃材などのバイオマスリサイクルなど、自然エネルギーの活用を進めて欲しい。 ・新規就農者の住宅提供や確保はどうするのか。 ・アグリサポーター制度の創設はどうか。 	60代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブなども含め、村の育児・教育環境のよさをPRしていきたい。 ・独身の消防団員の婚活支援を行い、1人親家庭にも来ていただきたい。 ・バイオマス発電はなかなか難しいが、風力や太陽光などの自然エネルギー発電を今後進めていきたい。 ・単独で住める住宅整備を検討したい。 ・Sさんを中心に検討していく。援農隊のような組織づくりたい。起業者への支援したい。
◆ 当郷(11月1日:当郷公民館)				
<ul style="list-style-type: none"> ・当郷では農地保全会の役員の方から、担い手の高齢化や後継者不足の問題を伺っている。村で育成できないか。 	60代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> ・村内全体でみると当郷は頑張っている。現状では条件のよい場所が中心となっているが、村民全体で考えなければいけない。よいものをつくり、特徴のある農業を展開したい。奈良本原地区では、若者が中心となって、農大との連携など新しい形もできてつつあり、総合的に考える必要
<ul style="list-style-type: none"> ・杜仲は村に適した作物である。いきたい会ではエゴマの栽培にも取り組んでいる。荒れた土地でもできる作物があるので、工夫次第。有機農作物など自然環境に適した作物生産について村でも方策等を考えて欲しい。現在は少人数で活動しているが、乾燥葉では大手企業からの需要 	70代	女性	村長	<ul style="list-style-type: none"> ・満山荘で杜仲葉を出している。エゴマは筑北村でも行っていて、村でも試験的に栽培を始めている。東京農大と連携・研究を進めたい。人員確保については、シルバー人材の活用も考えられるが、コストもかかる。若い人への起業支援を行って、Iターンの方に手伝ってもらえるような組織
<ul style="list-style-type: none"> ・自分も農業をしているが、アンケートの結果をみると課題が多いが、重点課題になっていない。これについてはどのように考えるか。 	30代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果は尊重する。村でも課題に対しては積極的に取り組んでいく。
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により農作物を作る方も少なくなる。機械で作業できない場所への補助等の検討も必要。タチアカネの種の入手はどうするのか。 	70代	男性	村長	<ul style="list-style-type: none"> ・タチアカネの評判がよい。イトーヨーカドーは10t欲しいとのことで、年末から都内で販売したいと考えている。種栽培は、当郷の高地でもできないか、深山権現堂で実験中。青木村で栽培するソバをすべてタチアカネにして村中に広げ、ソバで村おこしをしていきたい。“夏ソバ”も検討している。